

県立しろやま支援学校と「学校間交流」

延岡市立岡富中学校
じんけん通信
 「共生社会」をめざして

共同製作の様子。コミュニケーションが盛んに交わされていました。




今回は、聴覚に障がいのある中学生2・3年生4名の生徒との交流です。ですから、コミュニケーションは手話、ジェスチャーが基本になります。
 やや緊張の面持ちの生徒会役員、いよいよ自己紹介です。文字（漢字）ごとに手話で示します。うまくできているか不安だ

ます。これは、互いの個性を認め合うことで豊かな人間性や社会性を育むことや、「共生社会※」の一員としての自覚をもつことを目的としています。
 先月29日（火）の第3回では、本校生徒会役員がしろやま支援学校の聴覚障がい教育部門を訪問しました。

つたと思いますが、相手のうなずきを自信に変えて、手話を披露してくれました。

学校見学の後は、給食をいたしました。その際、話すことが比較的できる生徒とは会話で、または紙に書く「筆談」で交流を深めました。昼休みにはパラリンピックの競技にもなっている「ボッチャ」で一喜一憂しました。

生徒会役員の感想より（抜粋）

- コミュニケーションに不安がありましたが、先生方のサポートや私の口元で理解してくれました。「ビーチ玉取って」がうまく伝わったとき、とても楽しくなりました。
- 小学校の時から知っている人もいたけど、他の人とも仲良くなれたのがうれしかったです。アートを作り上げたときもそれぞれの個性が出ていておもしろかったです。今度は手話で話せるように頑張ります。
- 耳が聞こえなくても、何も問題なく仲良くなれることができると分かったことが何よりもうれしかったです。また会う機会もあると思うので、そのときは自分から話に行けたらいいなと思います。
- はじめはどう話したらいいのかなと思ったけど、紙に書いたり、体を使って表現したりして、協力しながら活動できてよかったです。
- 協力して何かをすることがとても楽しかった。手話を使って自分の気持ちを伝えることができた。この交流を今後生かしていきたい。
- 言葉で伝わらなくてもジェスチャーや手話、紙に書くなど伝える手段はたくさんあることが分かりました。これからは今回学んだ手話についてもっと知って、たくさん話してみようと思います。

※共生社会：すべての人が互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会。

午後は、講師に酒井美由紀先 生をお招きし、共同製作を行いました。最初に、絵の具を付けてビーチ玉を大きな発砲スチロー ルの板の上で何回もみんなで転がします。不思議なデザイン画の完成です。次に名前（平仮名・漢字・ローマ字）から3つの文字を選び、色画用紙に写して大きく切り取りました。それをデザインとして組み合わせていくのです。途中、やり方を教え合ったり、アイディアを称賛したりする場面も見られ、自然なコ



ミニユニークーションができていませんでした。そのおかげで、素晴らしい作品が完成しました。

私たちの行動一つで、「壁」は壊せます。それを感じた学習でした。

【ご家庭から】ご感想をお待ちしております。学級担任にお渡しください。

年 組／お名前

（ペンネームでもO.K.ですよ！）

◆書いていただいた内容をこの通信で紹介してもよろしいですか？（〇・×）